

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

イラン、ウズベキスタン、中国・新疆ウイグル自治区の地機と杵機と高機

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5220

<緯糸打ち締め糸>

イラン：

クルド人（遊牧民）【IGF-1】

開口部記憶紐

開口保持具とおなじく経糸の開口部に通してあり、紐の両端は相互に結び合わせて輪になっている。この紐は、開口保持具が経糸のあいだから抜け落ちたばあいに、もとの状態への回復を容易にするための部品として機能している。

以下には、この開口部記憶紐を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。（写真 19）

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】、クルド人（遊牧民）【IGF-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】、カザフ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

カザフ人（遊牧民）【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

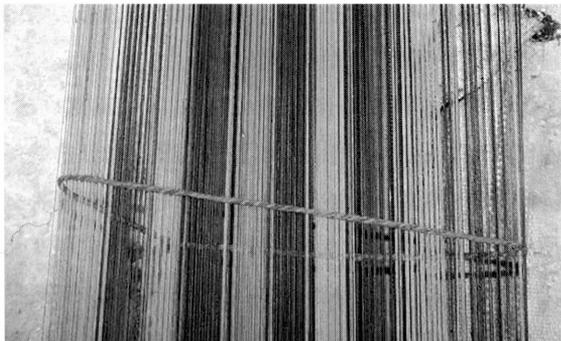


写真19 開口部記憶紐

経糸整列具

経糸整列具は、織り幅に合わせて、経糸を均等な間隔に配列するための部品である。経糸整列具としては、経糸整列棒、経糸整列板がある。経糸整列棒は、いずれも経糸の下面に取り付けてあり、経糸は数本ごと、あるいは数十本ごとに分けて、棒に巻き付けた糸、あるいは、紐で固定している例と、棒に結んだ2本の糸をもじり合わせ、そのあいだに、経糸を1本ずつ通している例がある。また、経糸整列板は、板の中央に経糸を1本ずつ通す穴を1列にあけたものである。

以下には、これらの経糸整列具を確認した地機の

国別の使用民族名とコード番号を記す。

<糸や紐を巻き付けた経糸整列棒>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】（写真 20）

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】【UGJ-1】、カザフ人【UGC-6】、タジク人【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

カザフ人（遊牧民）【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

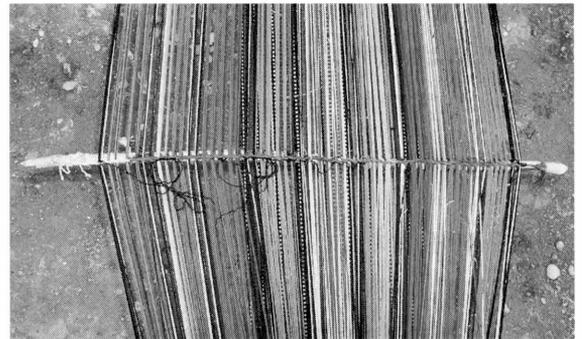


写真20 糸を巻きつけた経糸整列棒

<もじり合わせた糸を結んだ経糸整列棒>

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】（写真 21）

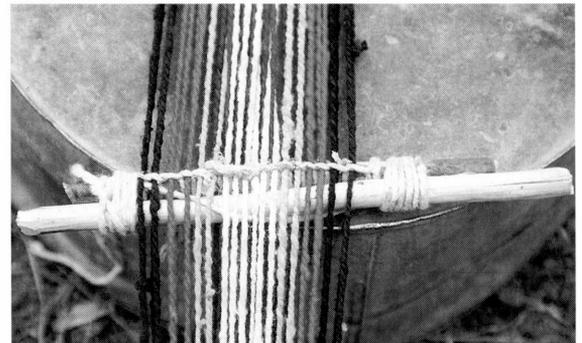


写真21 もじり合わせた糸を結んだ経糸整列棒

<経糸整列板>

これは緯打具の項で述べている板状の緯打具と同一の部品であり、この経糸整列板としての機能は、緯打具の副次的な機能として位置づけられる。

イラン：

キーンラン人【IGF-3】（写真18参照）

幅出し具

幅出し具は、織幅を一定に保つための部品であり、幅出し具としては伸子がある。この伸子の使用例は、

中国・新疆ウイグル自治区において1例のみを確認している。以下に、その地機の使用民族名とコード番号を記す。

<伸子>

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】(写真14c参照)

2) 経糸の保持方式

地機では、地面と平行して水平に張りわたしてある経糸の両端、あるいは、前部と後部は、経糸保持棒としての杭や横木によって固定してあり、経糸保持棒の位置は変化することがない。したがって、地機における経糸の保持方式は、固定式として位置づけられる⁵⁾。

3) 経糸保持具の構成型式

経糸保持具の項で述べているように、地機の経糸保持具としては、杭と横木などの経糸保持棒と、紐を使用した経糸保持紐がある。このうち、横木を経糸保持棒としたばあいと、紐を経糸保持紐としたばあいには、これらは、経糸間接保持具と組みあわせて設置することによって、経糸保持具として機能する。経糸保持棒としての横木や経糸保持紐と、経糸間接保持具との組み合わせは、多岐にわたっているが、経糸保持具の構成型式については、経糸が張りわたしてある地機の前部と後部の経糸保持具に注目し、3種類の型式に分類した。

以下には、それらの構成型式ごとに、該当する地機の国別の使用民族名とコード番号、および、個々の構成型式の概要を記す。

<杭型>

この型式では、地機の前部に1本の杭、後部に1本の杭が、それぞれ経糸保持棒としてそなわっており、経糸はそれぞれの杭に束ねた状態で張りわたしてある。

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】

<杭・横木型(杭・紐型)>

この型式では、経糸保持具が1本の杭と1本の横木で構成されている。地機の前部に杭、後部に横木

があり、経糸は杭と横木に直接張りわたしてある。そして、横木の両端は、2本の杭(経糸間接保持棒)に、直接、あるいは、間接的に繋いである。なお、この型式には、経糸保持棒としての横木のかわりに、紐(経糸保持紐)を使用する例も含んでおり、経糸を杭と紐に張りわたしているばあいには、紐は経糸間接保持棒としての横木に、別の紐で繋いである。そして、その横木の両端は、2本の杭に、直接、あるいは、間接的に繋いである。

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】【UGJ-1】、ガブ人【UGC-6】、

タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人

【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ガブ人(遊牧民)【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

<横木型(紐型)>

この型式では、地機の前部と後部に経糸保持棒としての横木が1本ずつあり、経糸は、これらの横木に直接張りわたしてある。そして、横木の両端は、2本の杭(経糸間接保持棒)に、直接、あるいは、間接的に繋いである。なお、この型式には、経糸保持棒としての横木のかわりに、紐(経糸保持紐)を使用する例も含んでおり、経糸を2本の紐に張りわたしているばあいには、それぞれの紐は経糸間接保持棒としての横木に、別の紐で繋いである。

イラン：

カシュガイ人(遊牧民)【IGF-2】、キールン人【IGF-3】、

クルト人(遊牧民)【IGF-1】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】

4) 整経方式

地機の整経方式⁶⁾としては、平整経式⁷⁾、輪状整経式⁸⁾、擬似輪状整経式⁹⁾を確認している。

以下には、これらの整経方式ごとに、該当する地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<平整経式>

イラン：

カシュカイ人（遊牧民）【IGF-2】、キールン人【IGF-3】、
クルト人（遊牧民）【IGF-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】、タジク人【UGF-1】

<輪状整経式>

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】、カザフ人【UGC-6】、タジク人
【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

カザフ人（遊牧民）【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

<擬似輪状整経式>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGJ-1】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】

5) 開口具の基本構成型式

開口具の基本構成型式は、織物の三原組織のうちで、もっとも基本的な平織組織を織るために必要となる開口具の構成型式である。したがって、こうした開口具の基本構成型式を決定するうえで対象となる開口具としては、さきに開口具の項で述べている地組織を織るための開口具、すなわち、輪状綜統と、開口保持棒や開口保持板などの開口保持具がある。これらの開口具で平織組織の織物を織るためには、輪状綜統1枚と開口保持棒1本、あるいは、輪状綜統1枚と開口保持板1枚が基本的な組み合わせであり、こうした構成型式は単式輪状綜統型として位置づけられる¹⁰⁾。また、このほかに開口具の基本構成型式としては、例外的な型式ではあるが、開口具として綜統がそなわっていない無綜統型も確認している。

以下には、これらの開口具の基本構成型式ごとに、該当する地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<単式輪状綜統型>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】、カシュカイ人（遊牧民）

【IGF-2】、クルト人（遊牧民）【IGF-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】【UGC-1】、タジク人【UGF-1】
【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】、カザフ人（遊牧民）【XGC-2】、
モンゴル人【XGC-1】

<無綜統型>

イラン：

キールン人【IGF-3】

6) 紋組織用開口具の構成型式

地機の開口具のうちには、すでに述べているように、紋組織を織るために使用する開口具として、糸綜統と開口保持棒がある。これらの開口具は、イランのアゼルバイジャン人、ウズベキスタンのタジク人、トルクメン人のもとで確認している。ただし、これらの開口具の構成型式には、開口具として糸綜統が経糸に付属した経糸付属糸綜統型、糸綜統が輪状綜統の綜統糸に付属した輪状綜統付属糸綜統型、経糸に付属した糸綜統と開口保持棒を1組の開口具として使用する経糸付属糸綜統・開口保持棒併用型の3種類がある。

以下には、これらの構成型式ごとに、該当する地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<経糸付属糸綜統型>

ウズベキスタン：

タジク人【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】

<輪状綜統付属糸綜統型>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

タジク人【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】

<経糸付属糸綜統・開口保持棒併用型>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

7) 開口具の設置方式

地機による機織りでは、織り手は、ある程度織り進むと、そのたびごとに、開口具をはじめとする織りの操作に必要な部品を前方に移動させる。そして、

それとともに、織り手自身も前方に移動して機織りをつづける。開口具の設置方式は、このような機織りの作業工程において、開口具がどのような状態で設置してあるかということであり、以下では、地組織を織るための開口具と、紋組織を織るための開口具の設置方式についてあきらかにする。

地組織を織るための開口具では、開口具の基本構成型式が単式輪状綜統型であるばあいに、開口具の設置方式として対象となるのは、輪状綜統と開口保持具であり、その設置方式には、綜統固定・開口保持具可動式と綜統・開口保持具可動式の2方式がある。ただし、開口保持具のうちには、すでに述べているように、開口保持棒と開口保持板の2種類がある。したがって、それらの違いにもとづき、開口具の設置方式を、綜統固定・開口保持棒可動式、綜統固定・開口保持板可動式、綜統・開口保持棒可動式の3方式に分類した。

紋組織を織るための開口具の設置方式では、開口具の構成型式が、経糸付属糸綜統型と輪状綜統付属糸綜統型のばあいは綜統可動型となる。また、経糸付属糸綜統・開口保持棒併用型のばあいは綜統・開口保持棒可動型となる。

以下には、これらの地組織を織るため、および、紋組織を織るための設置方式ごとに、該当する地機を使用している国別の使用民族名とコード番号を記す。

<地組織を織るための開口具の設置方式>

① 綜統固定・開口保持棒可動式

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】、クルド人（遊牧民）【IGF-1】、カシュガイ人（遊牧民）【IGF-2】

② 綜統固定・開口保持板可動式

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】【UGJ-1】、カザフ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国の新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】、カザフ人（遊牧民）【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

③ 綜統・開口保持棒可動式

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】

<紋組織を織るための開口具の設置方式>

① 綜統可動式

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

タジク人【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】

② 綜統・開口保持棒可動式

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

8) 開口操作方式

織物を織るためには、経糸の開口や逆開口を交互に繰り返す、開口部や逆開口部に緯糸を通す。そうした経糸の開口や逆開口をおこなうための操作は、開口具をそなえている織機では、基本的に開口具に依存している。したがって、ここでは、地組織を織るための開口具と、紋組織を織るための開口具の操作方式をあきらかにする。

地組織を織るための開口具の操作方式は、開口具の設置方式が綜統固定・開口保持棒可動式のばあいには、開口保持棒を動かすことによって、経糸の開口と逆開口をおこなう。また、綜統固定・開口保持板可動式のばあいには、開口保持板を動かすことによって、経糸の開口と逆開口をおこなう。そして、綜統・開口保持棒可動式のばあいには、綜統と開口保持棒の双方を動かすことによって経糸の開口と逆開口をおこなう。こうした一連の操作は、地機では、いずれのばあいも手動式であり、地組織を織るための開口具の操作方式としては、開口保持棒手動式、開口保持板手動式、綜統・開口保持棒手動式の3種類がある。

紋組織を織るための開口具の操作方式は、開口具の設置方式が綜統可動式のばあいには、綜統を動かすことによって経糸の開口と逆開口をおこなう。また、綜統・開口保持棒可動式のばあいには、綜統と開口保持棒の双方を動かすことによって経糸の開口と逆開口をおこなう。こうした一連の操作は、いずれのばあいも手動式であり、紋組織を織るための開口具の操作方式としては、綜統手動式と綜統・開口

保持棒手動式の2種類がある。

以下には、これらの地組織を織るため、および、紋組織を織るための開口操作方式ごとに、該当する地機を使用している国別の使用民族名とコード番号、および、操作方式の概要を記す。

<地組織を織るための開口具の操作方式>

① 開口保持棒手動式

この操作方式では、開口保持棒を手動で手前に引き寄せることによって、経糸の開口をおこない、前方に遠ざけることによって経糸の逆開口をおこなう。ただし、地機に張りわたした経糸が太くて毛羽立っており、経糸同士がからみやすくなっていると、開口と逆開口がスムーズにおこなえない。こうしたことから、一般的には、開口補助具である弾き棒を経糸の上から左右に往復させて、絡み合った経糸をほぐしたり、手のひらで経糸を押し下げたりして、上糸と下糸を分離させて開口や逆開口をおこなうという補助的な操作が加わる。(図2)

イラン:

アゼルバイジャン人【IGJ-1】、クルド人(遊牧民)【IGF-1】、カブカイ人(遊牧民)【IGF-2】

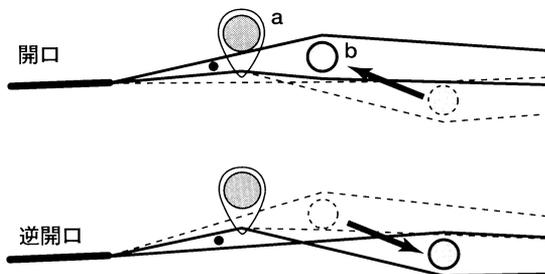


図2 開口保持棒手動式の開口と逆開口
輪状綜統-a, 開口保持棒-b

② 開口保持板手動式

この操作方式では、平板な状態で寝かせてある開口保持板を手動で手前に引き寄せるとともに、開口保持板を寝かせていた状態から引き起こすことによって、経糸の上糸と下糸を押し広げて開口をおこなう。そして、開口保持板を平板な状態に寝かせ、前方に遠ざけることによって、経糸の逆開口をおこなう。なお、この開口方式でも、①の開口保持棒手動式のばあいと同様に、絡み合った経糸をほぐすために手のひらで経糸を押し下げるといった補助的な操作

が必要となることもある。(図3)

ウズベキスタン:

ウズベク人【UGC-1】【UGJ-1】、カブカイ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国の新疆ウイグル自治区:

ウイグル人【XGJ-1】、カブカイ人(遊牧民)【XGC?2】、モンゴル人【XGC-1】

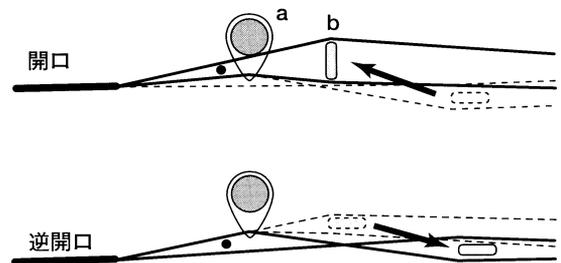


図3 開口保持板手動式の開口と逆開口
輪状綜統-a, 開口保持板-b

③ 綜統・開口保持棒手動式

この操作方式では、開口保持棒を手動で手前に引き寄せることによって、経糸の開口をおこない、開口保持棒を手動で前方に遠ざけ、輪状綜統を手動で引き上げることによって経糸の逆開口をおこなう。ただし、①や②のばあいと同様に、開口や逆開口がスムーズにおこなえばあいには、絡み合っている経糸を指先でほぐしたり、手のひらで押し下げたりして、上糸と下糸を分離させて開口や逆開口をおこなうという補助的な操作が加わる。(図4)

ウズベキスタン:

ウズベク人【UGF-2】

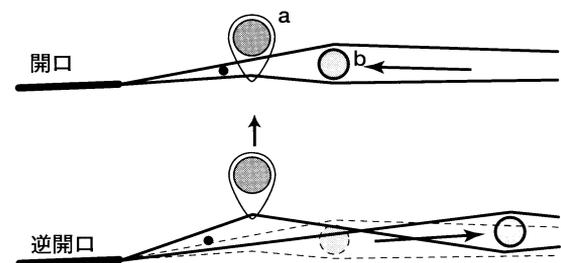


図4 綜統・開口保持棒手動式の開口と逆開口
輪状綜統-a, 開口保持棒-b

<紋組織を織るための開口具の操作方式>

① 綜統手動式

この操作方式では、経糸、あるいは、輪状綜統に付属している糸綜統を手動で引き上げることによ

て、紋緯を通すための開口をおこなう。

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

タジク人【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】(写真 22)



写真22 綜統手動式の糸綜統による開口操作

② 綜統・開口保持棒手動式

この操作方式では、開口保持棒を手動で前方に遠ざけ、輪状綜統を手動で引き上げることによって紋緯を通すための経糸の開口をおこなう。

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】(写真 23)



写真23 綜統・開口保持棒手動式による開口操作

9) 開口具を操作しない緯入方式

地機の多くは、開口具がそなわっており、開口具を操作することによって経糸の開口や逆開口をおこない、経糸のあいだに緯糸を通す。地機のうちには、開口具の基本構成型式の項で述べているように、無綜統型という綜統がそなわっていないものがあるが、綜統のみならず開口保持具もそなわっていない地機を、イランで1例のみ確認している。この地機はむしろを織るために使用しているもので、機織り

作業では、開口具を操作することなしに、奇数列、あるいは偶数列の経糸を指先で1本ずつひろって経糸のあいだに緯糸を通してしている。

以下には、このような開口具を操作しない緯糸の緯入方式を確認した枠機の使用民族名とコード番号を記す。

<開口具を操作しない緯入方式>

イラン：

ギラン人【IGF-3】(写真 24)

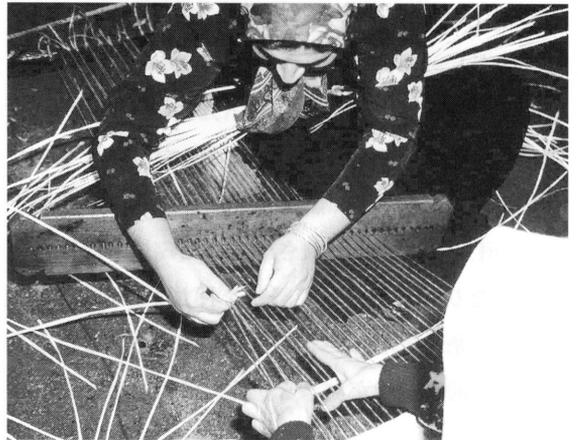


写真24 開口具を操作しない緯入方式

10) 織技法

地機による機織りでは、織技法として、経縞や格子縞の縞織、綴織、経糸浮織（昼夜織）、緯糸浮織（縫取織）、パイル織、無地織を確認している。

以下には、それらの織技法を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<縞織（経縞）>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】【UGC-1】【UGJ-1】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】

<縞織（格子縞）>

イラン：

クルド人（遊牧民）【IGF-1】

<綴織>

イラン：

カシュカイ人（遊牧民）【IGF-2】

<経糸浮織（昼夜織）>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】、タジク人【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】

中国・新疆ウイグル自治区：

カザフ人（遊牧民）【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

<緯糸浮織（縫取織）>

ウズベキスタン：

カザフ人【UGC-6】

<パイル織>

イラン：

カシュカイ人（遊牧民）【IGF-2】

<無地織>

イラン：

キールラン人【IGF-3】

なお、これらの織技法は、単独の技法として使用しているばあいと、併用技法として使用しているばあいがある。

以下には、単独技法と併用技法を列挙し、それぞれの技法を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<単独技法>

① 縞織（経縞）

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】【UGJ-1】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】、トルクメン人【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】

② 縞織（格子縞）

イラン：

クルト人（遊牧民）【IGF-1】

③ 経糸浮織（昼夜織）

中国・新疆ウイグル自治区：

カザフ人（遊牧民）【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

④ 緯糸浮織（縫取織）

ウズベキスタン：

カザフ人【UGC-6】

⑤ 無地平織

イラン：

キールラン人【IGF-3】

<併用技法>

① 綴・パイル織

イラン：

カシュカイ人（遊牧民）【IGF-2】

② 縞織（経縞）・経糸浮織

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】、タジク人【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】

11) 織物の地組織

地機による機織りでは、織物の地組織は、いずれも平織組織、あるいは、平織の変化組織であった。ただし、経縞の縞織物や経縞と経糸浮織を併用した織物の地組織は、平織組織の変化組織として位置づけられる経畝組織であり、綴織物の地組織は、おなじく平織の変化組織として位置づけられる緯畝組織である。

以下には、これらの織物の地組織を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<平織組織>

イラン：

クルト人（遊牧民）【IGF-1】、カシュカイ人（遊牧民）【IGF-2】

<経畝組織>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】、

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】【UGC-1】【UGJ-1】、カザフ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGC-3】、カザフ人【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

<緯畝組織>

イラン：

カシュカイ人（遊牧民）【IGF-2】、キーンラン人【IGF-3】

なお、ほとんどすべての地機では、織物の地組織は、1種類のみを確認しているが、イランのカシュカイ人（遊牧民）の地機【IGF-2】では、織物の地組織として平織組織と緯畝組織を併用していた。

12) 織物の繊維素材

地機による機織りでは、織物の繊維素材として、羊毛、木綿、アシを確認している。

以下には、それぞれの繊維素材を確認した地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<羊毛>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】、カシュカイ人（遊牧民）【IGF-2】、クト人（遊牧民）【IGF-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】【UGC-1】【UGJ-1】、ガフ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】、ガフ人（遊牧民）【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

<木綿>

ウズベキスタン：

タジク人【UGF-1】

<アシ>

イラン：

キーンラン人【IGF-3】

13) 織物の用途

地機で織られていた織物の用途は、カーペット、布団カバー、袋、テント説営用のテープ、細紐、むしろなどであった。

以下には、織物を用途ごとに類別し、それぞれの織物を織っていた地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<カーペット用>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】、クト人（遊牧民）【IGF-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-1】【UGJ-1】、ガフ人【UGC-6】、タジク人【UGF-1】【UGC-4】【UGC-5】、トルクメン人【UGC-2】【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】

<布団カバー用>

イラン：

アゼルバイジャン人【IGJ-1】、クト人（遊牧民）【IGF-1】

<袋用>

イラン：

カシュカイ人（遊牧民）【IGF-2】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGC-6】

<テント説営テープ用>

中国・新疆ウイグル自治区：

ガフ人（遊牧民）【XGC-2】、モンゴル人【XGC-1】

<細紐用>

ウズベキスタン：

ウズベク人【UGF-2】

<むしろ用>

イラン：

キーンラン人【IGF-3】

14) 織物の寸法

地機で織っていた織物は、経糸の全長がもっとも短いもので132cm、もっとも長いもので5280cmであり、織幅は、もっとも狭いもので3.6cm、もっとも広いもので52cmであった。

以下には、そうした経糸の全長と織り幅を、織物の用途別に提示するとともに、それらの織物を織っていた地機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<カーペット用、布団カバー用、袋用など>

イラン：

5280cm × 30.0cm：アゼルバイジャン人【IGJ-1】

1682cm × 46.0cm：クト人（遊牧民）【IGF-1】

ウズベキスタン：

1540cm × 32.0cm：ウズベク人【UGC-1】

2300cm × 35.0cm：ウズベク人【UGJ-1】
2400cm × 35.0cm：カザフ人【UGC-6】
4700cm × 38.0cm：タジク人【UGF-1】
3300cm × 34.0cm：タジク人【UGC-4】
3000cm × 31.0cm：タジク人【UGC-5】
2000cm × 41.5cm：トルクメン人【UGC-2】
800cm × 35.0cm：トルクメン人【UGC-3】

中国・新疆ウイグル自治区：

1450cm × 52.0cm：ウイグル人【XGJ-1】

<テント設営テープ用>

中国・新疆ウイグル自治区：

900cm × 8.5cm：モンゴル人【XGC-1】

920cm × 4.0cm：カザフ人(遊牧民)【XGC-2】

<袋用>

イラン：

266cm × 28.5cm：カシュカイ人(遊牧民)【IGF-2】

<細紐用>

ウズベキスタン：

436cm × 3.6cm：ウズベク人【UGF-2】

<むしろ用>

イラン：

132cm × 42.0cm：ギーラーン人【IGF-3】

15) 織り手

地機による機織りでは、大半の民族のもとでは、織り手は女性であったが、中国・新疆ウイグル自治区のウイグル人のもとでは、織り手は男性であった。また、イランのクルド人とギーラーン人のもとでは、織り手1人と介添え役1人の2人で機織りをおこなっていたが、その他の民族のもとでは、織り手は、すべて1人であった。

2 枠機

枠機は、枠、あるいは、枠に付属する棒を経糸保持具とし、それらのあいだに経糸を張りわたした織機である。このような枠を使用した織機について、「枠機」という名称は、これまでにはあまり使用されていない。従来は、一般に、枠機の枠、すなわち、機枠が水平であるばあいの枠機は、「水平機」、あるいは、「横機」などの名で呼ばれてきた。また、機

枠が垂直に立った状態であるばあいの枠機は、「垂直機」、あるいは、「縦機」の名で呼ばれてきた。しかしながら、後述するように、枠機では、機枠の設置方式が異なっているにもかかわらず、織機としての基本構造が同一のものもある¹¹⁾。さらに、「垂直機」や「縦機」の名称は、これまでに、まったく異なる織機型式である「錘り機」¹²⁾ としばしば混同されてきた。したがって、「水平機」や「横機」、「垂直機」や「縦機」といった旧来の名称は、織機の通文化的な比較研究をおこなさいの織機の名称としては不適切である。したがって、以上のような問題点を解決するために、本稿では、あらたに「枠機」の名称を設定し、使用することとした。

枠機については、今回、イランでは、アゼルバイジャン人、ペルシア人、カシュカイ人、クルド人、タリシュ人、トルクメン人、バフチアリ人、ロル人の8民族、ウズベキスタンでは、ウズベク人、カザフ人、トルクメン人の3民族、そして、中国・新疆ウイグル自治区では、唯一、ウイグル人のもとで、総計31例の調査をおこなった。ただし、これらの調査のうちには、巻き編用の枠機を1例【IFJ-3】含んでいることから、純粋に織機として位置づけられる枠機は、総計30例となる。以下では、これら30例の枠機について分析する。

1) 構成部品

枠機のおもな構成部品には、以下に述べるような、経糸保持具、経糸間接保持具、経糸中継棒、開口具、綜統固定具、開口補助具、緯入具、緯打具、緯打補助具、パイル糸打ち込み具、開口記憶紐、経糸整列具、幅出し具などがある。

経糸保持具

枠機では、経糸を直接保持するための経糸保持具として、以下に述べるような、経糸保持棒、経巻き棒、布巻き棒の3種類がある。

<経糸保持棒>

経糸保持棒は、経巻き棒や布巻き棒のような、経糸や織られた布の巻き取り機能のない経糸保持具である。このような経糸保持棒は、2本を1組として使用しており、そうした経糸保持棒には、四角形を

構成する機枠の4本の棒のうちの平行する2本の棒、あるいは、機枠の4本のうちの1本と、機枠に付属する機枠とは別の1本の棒を使用している。

以下には、このような経糸保持棒を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

イラン：

ペルシア人【IFF-5】【IFF-6】【IFC-3】【IFC-4】
【IFC-7】、アゼルバイジャン人【IFF-4】【IFC-2】【IFC-5】、カジュカイ人、【IFF-1】、クルド人【IFC-9】【IFJ-1】、クルド人（遊牧民）【IFF-2】、列シユ人【IFC-1】、トルクメン人【IFF-3】【IFC-6】、ハフチアリ人【IFJ-2】、ロル人【IFC-8】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFF-3】【UFF-4】【UFC-1】
【UFC-3】、カブフ人【UFF-5】、タジク人【UFC-2】、トルクメン人【UFF-1】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】【XGJ-2】【XGJ-3】

<経巻き棒>

経巻き棒は、経糸の巻き取り機能をそなえた経糸保持具である。このような経巻き棒は、布巻き棒と2本1組で使用している。

以下には、経糸保持具として、経巻き棒を使用している例を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

イラン：

ペルシア人【IFF-7】【IFF-8】

<布巻き棒>

布巻き棒は、織られた布の巻き取り機能をそなえた経糸保持具である。このような布巻き棒は、経巻き棒と2本1組で使用している。

以下には、経糸保持具として、布巻き棒を使用している例を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

イラン：

ペルシア人【IFF-7】【IFF-8】

経糸間接保持具

経糸間接保持具は、経糸を直接保持する経糸保持具を設置するための部品、および、機織りに不可欠の経糸の張力を調整するための部品として、経糸を

間接的に保持する機能をそなえている。そうした経糸間接保持具としては、機枠、ネジ金具、板、ジャッキ、くさび、経巻き制御棒、布巻き制御棒などがある。これらのうち、機枠は、枠機のさまざまな構成部品を設置するための基台として機能している。そして、そうした機能には、四角形の機枠を構成する4本の棒のうちの1本、あるいは2本が経糸保持具として機能することも含まれている。したがって、この点において、機枠は経糸間接保持具として位置づけられる。一方、機枠以外の経糸間接保持具は、いずれも経糸の張力を調整する機能をそなえており、経糸の張力を調整することによって、間接的に経糸を保持している。そうした専用の部品は、ネジ金具、板、ジャッキ、くさびなどであり、これらは、とくに2本の経糸保持具の間隔を調整して、経糸に適当な張力を付与するために機能している。一方、経巻き制御棒と布巻き制御棒は、経巻き棒に巻き取ってある経糸を繰り出したり、布巻き棒で布を巻き取ったりすることとあわせて、経糸の張力を調整するために機能している。

以下には、これらの経糸間接保持具を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<ネジ金具>

イラン：

ペルシア人【IFF-5】【IFF-6】、アゼルバイジャン人【IFF-4】【IFC-2】、カジュカイ人【IFF-1】、クルド人【IFJ-1】、クルド人（遊牧民）【IFF-2】、列シユ人【IFC-1】、トルクメン人【IFC-6】、ハフチアリ人【IFJ-2】、ロル人【IFC-8】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFC-1】【UFC-3】、タジク人【UFC-2】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XFJ-2】

<板>

イラン：

トルクメン人【IFF-3】

<ジャッキ>

イラン：

ペルシア人【IFC-3】【IFC-4】【IFC-7】、アゼルバイジャン人【IFC-5】、クルド人【IFC-9】

<くさび>

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XFJ-1】【XFJ-3】

<経巻き制御棒と布巻き制御棒>

イラン：

ペルシア人【IFF-7】【IFF-8】

経糸中継棒

経糸中継棒は、整経方式が擬似輪状整経式のばあい、経糸を輪状に繋ぎとめるための部品として使用している。

以下には、この経糸中継棒を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

イラン：

クルド人【IFJ-1】、パフリア人【IFJ-2】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XFJ-1】(写真 25)【XFJ-2】【XFJ-3】

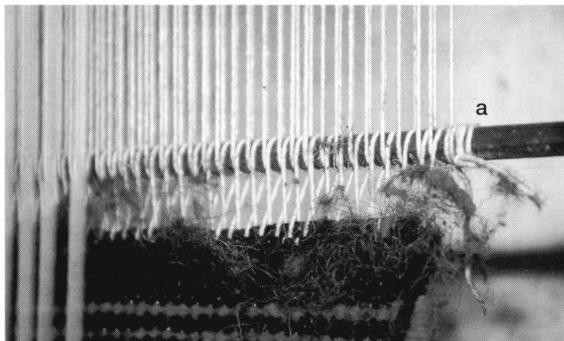


写真25 経糸中継棒-a

開口具

開口具には、地組織を織るために使用するものと、紋組織を織るために使用するものがある。このうち、地組織を織るための開口具には、輪状綜統と開口保持具があり、開口保持具としては開口保持棒を使用している。そして、紋組織を織るための開口具としては、輪状綜統がある。

以下には、これらの開口具を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<地組織を織るための開口具>

① 輪状綜統

イラン：

ペルシア人【IFF-5】【IFF-7】【IFF-8】、カシュカイ人【IFF-1】、クルド人【IFJ-1】、クルド人(遊牧民)【IFF-2】、クリシュ人【IFC-1】、トルクメン人【IFF-3】

【IFC-6】、パフリア人【IFJ-1】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFC-3】、カザフ人【UFF-5】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XFJ-1】【XFJ-2】【XFJ-3】

② 開口保持棒

イラン：

ペルシア人【IFF-5】【IFF-6】【IFC-3】【IFC-4】【IFC-7】、アゼルバイジャン人【IFF-4】【IFC-2】【IFC-5】、カシュカイ人【IFF-1】、クルド人【IFC-9】【IFJ-1】、クルド人(遊牧民)【IFF-2】、クリシュ人【IFC-1】、トルクメン人【IFF-3】【IFC-6】、パフリア人【IFJ-2】、ロル人【IFC-8】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFF-3】【UFF-4】【UFC-1】【UFC-3】、カザフ人【UFF-5】、タジク人【UFC-2】、トルクメン人【UFF-1】

<紋組織を織るための開口具(輪状綜統)>

イラン：

ペルシア人【IFF-7】【IFF-8】

綜統固定具

綜統には、開口具の項で述べているように輪状綜統があるが、そのうちには、後述するように、設置方式が固定式のもの、可動式のものがあり、固定式の輪状綜統は、綜統固定具によって固定してある。そうした綜統固定具の種類には、2個1組の木片やレンガ、機枠の2本の棒に付属した把手状の金具などがある。そして、木片やレンガは、輪状綜統の綜統糸がかかっている綜統棒の両端を、下から支えて固定しており、機枠の2本の棒に付属した把手状の金具では、輪状綜統の綜統棒の両端を棒や金具にかけわたして固定している。

以下には、これらの綜統固定具を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<木片やレンガ>

イラン：

ペルシア人【IFF-5】、カシュカイ人【IFF-1】、クルド人(遊牧民)【IFF-2】(写真 26)、トルクメン人【IFF-3】【IFC-6】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFC-3】、カザフ人【UFF-5】



写真26 レンガを使用した綜統固定具

<機枠の2本の棒に付属した把手状の金具>
イラン:

列シ人【IFC-1】(写真27)、ハフチアリ人【IFJ-1】



写真27 把手状の金具を使用した綜統固定具-a

開口補助具

開口具による経糸の開口や逆開口を補助するための開口補助具には、地組織を織るためのものと紋組織を織るためのものがある。

地組織用の開口補助具としては、開口保持棒操作具、経糸すくい板、そして、天秤棒と天秤保持棒と

天秤連結紐が1組となった輪状綜統の牽引装置がある。これらのうち、開口保持棒操作具は、経糸の開口と逆開口をおこなうために開口保持棒を手前に引き寄せたり、前方に遠ざけたりするための補助具として使用されている。それらの中には、開口保持棒の両端に繋いだ2本1組の棒の端を持って手前に引き寄せたり、前方に遠ざけたりする例と、開口保持棒の両端に繋いだ2本1組の紐を引いて開口保持棒を引き寄せ、前方に遠ざけるときには、開口保持棒の両端を2本の棒で押している例がある。また、経糸すくい板は、下糸をすくい取って、経糸の逆開口部を拡大させるための補助具として使用している。そして、天秤棒は2枚1組の輪状綜統を保持し、手動操作によって、輪状綜統による経糸の開口と逆開口をおこなうために使用している。

紋組織用の開口補助具としては、紋綜統引き寄せ鉤と紋綜統連繫紐と紋綜統連繫紐保持棒が1組となった、紋綜統の牽引装置がある。

以下には、これらの開口補助具を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。



写真28 開口保持棒操作具-a₁, a₂



写真29 経糸すくい板-a

<地組織用の開口補助具>

① 開口保持棒操作具

開口保持棒の両端に繋いだ2本1組の棒の端を持って手前に引き寄せたり、前方に遠ざけたりする例イラン:

トルクメン人(棒)【IFF-3】(写真28)

ウズベキスタン:

ガフ人(紐と棒)【UFF-5】

② 経糸すくい板

イラン:

列シ人【IFC-1】(写真29)

③ 天秤棒

中国・新疆ウイグル自治区:

ウイグル人【XFJ-1】【XFJ-2】【XFJ-3】(写真30)

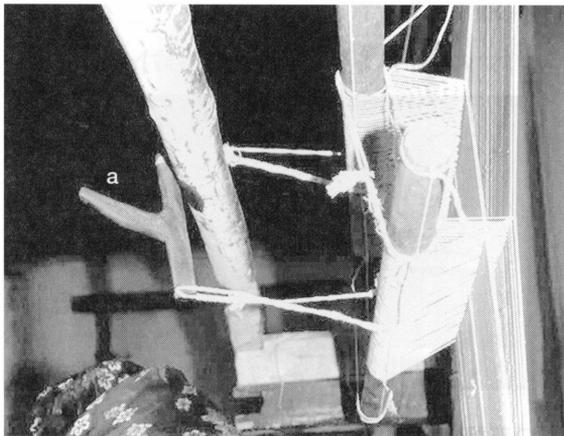


写真30 天秤棒-a

<紋組織用の開口補助具(紋綜統牽引装置)>

イラン:

パルシア人【IFF-7】【IFF-8】(写真31)



写真31 紋綜統牽引装置-a

緯入具

緯入具としては、片方の先に緯糸を引っ掛ける鉤、

あるいは緯糸を通すための丸い穴のある細長い金属製の板状緯入具と、木製の長方形の緯入具がある。前者はパイル織用の緯糸として、太い緯糸と細い緯糸の2種類を使うばあいの太い緯糸用の緯入具である。また、後者は綴織用の緯入具とである。

以下には、これらの緯入具を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<細長い金属製の板状緯入具>

イラン:

パルシア人【IFF-6】【IFC-3】【IFC-4】【IFC-7】、アゼルバイジャン人【IFF-4】(写真32)【IFC-5】、クルド人【IFC-9】、バフチアリ人【IFJ-2】、ロル人【IFC-8】



写真32 金属製の板状緯入具-a

<長方形の木製緯入具>

中国・新疆ウイグル自治区:

ウイグル人【XFJ-3】(写真33)

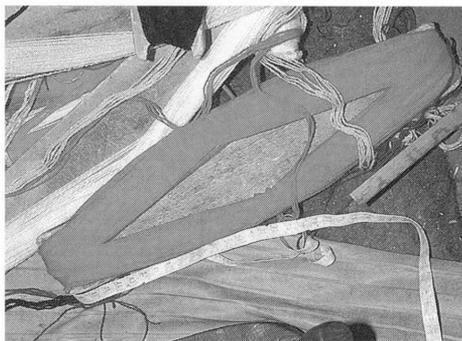


写真33 長方形の板状緯入具

緯打具

緯打具としては、金属製の櫛状の刃に把手が付属した緯打具と、先の尖った針状の緯打具がある。これらの緯打具のうち、前者の櫛状緯打具は、すべての枠機で使用されていた。ただし、刃のサイズや密

度はさまざまであり、把手についても、刃の根元に把手を一直線上に取り付けたものや、刃に対して90度近い角度を持たせて取り付けたものなどがあつた。さらに、把手の材質も、金属製と木製があつた。また、後者の針状緯打具は、パイル織で使用する太い緯糸と細い緯糸のうち、とくに細い緯糸用の緯打具として使用していたものである。

以下には、これらの緯打具を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<櫛状緯打具>

イラン：

ハルシア人【IFF-5】【IFF-6】【IFF-7】【IFF-8】
【IFC-3】【IFC-4】【IFC-7】、アゼルバイジャン人【IFF-4】
【IFC-2】【IFC-5】、カジャク人、【IFF-1】、クルド人
【IFC-9】【IFJ-1】、クルド人（遊牧民）【IFF-2】、列
シュ人【IFC-1】、トルクメン人【IFF-3】【IFC-6】（写真
34）、ハフチアリ人【IFJ-2】、ロル人【IFC-8】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFF-3】【UFF-4】【UFC-1】
【UFC-3】、カガフ人【UFF-5】、タジク人【UFC-2】、
トルクメン人【UFF-1】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XGJ-1】【XGJ-2】【XGJ-3】

<針状緯打具>

イラン：

トルクメン人【IFC-6】（写真 34）

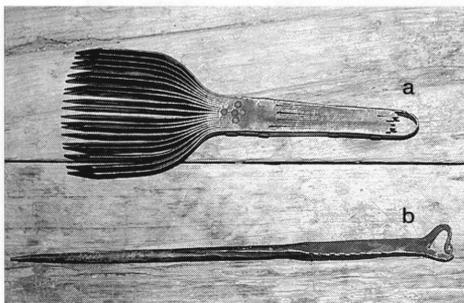


写真34 櫛状緯打具-a, 針状緯打具-b

緯打補助具

緯打補助具としては、緯糸打ち締め糸がある。これは、緯糸を打ち込むさいの緩衝材となるもので、緯糸の打ち込みは、緯糸打ち締め糸を介しておこなっている。

以下には、この緯打打ち締め糸を確認した枠機の

国別の使用民族名とコード番号を記す。

<緯糸打ち締め糸>

イラン：

カジャク人【IFF-1】、トルクメン人【IFC-6】、ハフチアリ人
【IFJ-2】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFC-3】

パイル糸打ち込み具

この打ち込み具は、ヘラ状を呈した金属製の平板な刃に把手が付属しており、パイル織でパイル糸の打ち込み具として使用しているもので、イランでのみ確認している。

以下には、このパイル打ち込み具を確認した枠機の使用民族名とコード番号を記す。

イラン：

ハルシア人【IFF-6】（写真 35）【IFC-7】

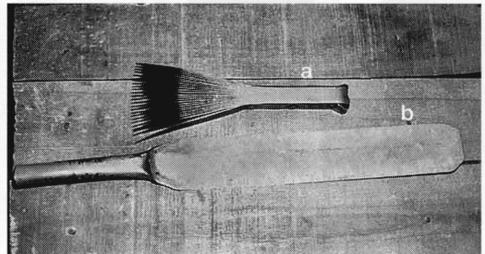


写真35 櫛状緯打具-a, パイル糸打ち込み具-b

開口部記憶紐

経糸の開口部に通し、開口部を保存しておくための開口部記憶紐は、イランでのみ確認している。

以下には、この開口部記憶紐を確認した枠機の使用民族名とコード番号を以下に記す。

イラン：

アゼルバイジャン人【IFC-2】、クルド人【IFC-9】、列シュ人
【IFC-1】、ハフチアリ人【IFJ-2】

経糸整列具

経糸整列具は、織り幅に合わせて、経糸を均等な間隔に配列するための部品であり、経糸整列具としては、綾糸と輪状綜統型経糸整列具がある。

以下には、こうした経糸整列具を確認した枠機の使用民族名とコード番号を記す。

<綾糸>

綾糸の使用例は、イランで1例を確認しているのみである。このばあいの綾糸は、1本のみを経糸の

逆開口部に通し、奇数列と偶数列の経糸を上糸と下糸として分離し、交差させている。

イラン：

トルクメン人【IFF-3】

<輪状綜統型経糸整列具>

輪状綜統型経糸整列具は、開口具の基本構成型式が単式輪状綜統型のばあいの輪状綜統と形状がまったくおなじものである。ただし、これは、輪状綜統としてはまったく機能しておらず、このような変則的な経糸整列具は、以下に記すように、イランでのみ確認している。

イラン：

パルシア人【IFF-6】【IFC-7】、アゼルバイジャン人【IFF-4】、バフアリ人【IFJ-2】、ロル人【IFC-8】(写真 36)



写真36 輪状綜統型経糸整列具-a

幅出し具

織り幅を一定に保つための幅出し具としては、棒の両端に鉄製の針が付属した、板状、あるいは、棒状の伸子がある。

以下には、そうした伸子を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

イラン：

パルシア人【IFF-7】【IFF-8】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XFJ-3】

2) 経糸の保持方式

枠機では、機枠に張りわたしてある経糸の前部と後部、あるいは、上部と下部は、2本の経糸保持棒、または、経巻き棒と布巻き棒などの経糸保持具によって固定してある。そして、機織りをしているあい

でも、経糸を固定している経糸保持具の位置は変化することがない。したがって、枠機における経糸の保持方式は、すべてが固定式として位置づけられる。

3) 機枠の設置方式

枠機の経糸保持具である2本の経糸保持棒、あるいは、経巻き棒と布巻き棒は、枠機の基本構造と密接に関係している。これらの経糸保持具は、すでに述べているように機枠の一部を構成していることから、経糸保持具に張りわたした経糸の角度は、機枠の設置角度の違いによって異なる。したがって、そうした機枠の設置角度の違いを機枠の設置方式として規定し、機枠の設置角度の違いによって、設置方式を、水平式、垂直式、傾斜式の3種類に分類した。

以下には、これらの設置方式に該当する枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<水平式>

イラン：

ガジャイ人【IFF-1】、クルト人(遊牧民)【IFF-2】、トルクメン人【IFF-3】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFF-3】【UFF-4】(写真 37)、カザフ人【UFF-5】、トルクメン人【UFF-1】



写真37 水平式枠機【UFF-4】

<垂直式>

イラン：

パルシア人【IFF-5】【IFF-6】(写真 38)【IFF-7】【IFF-8】【IFC-4】、アゼルバイジャン人【IFF-4】、ロル人【IFC-8】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFC-1】、

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XFJ-1】【XFJ-2】【XFJ-3】



写真38 垂直式枠機【IFF-6】

<傾斜式>

イラン：

パルシア人【IFC-3】【IFC-7】、クルト人【IFC-9】
【IFJ-1】、アゼルバイジャン人【IFC-2】(写真 39)
【IFC-5】、タジク人【IFC-1】、トルクメン人【IFC-6】、ハ
フチアリ人【IFJ-2】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFC-3】、タジク人【UFC-2】



写真39 傾斜式枠機【IFC-2】

4) 経糸保持具の構成型式

枠機の経糸保持具のうち、経糸を直接保持する部
品としては、すでに述べているように、経糸保持棒、
経巻き棒、布巻き棒がある。これらの経糸保持具は、
いずれも機枠と一体となっており、すべての枠機で
は、機枠の一部が経糸保持棒、あるいは、経巻き棒
と布巻き棒によって構成されている。ただし、一部
の枠機では、機枠の1本の棒と、機枠とは別の棒を
経糸保持棒とした例がある。したがって、経糸保持

具の構成型式には、機枠の2本の棒を経糸保持棒と
した型式、機枠の2本の棒を経巻き棒と布巻き棒と
した型式、機枠の1本の棒と、機枠以外の1本の棒
を経糸保持棒とした型式の3種類がある。

以下には、これらの経糸保持具の構成型式に該当
する枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<機枠の2本の棒を経糸保持棒とした型式>

イラン：

パルシア人【IFF-6】【IFC-3】【IFC-4】【IFC-7】、アゼ
ルバイジャン人【IFC-2】【IFC-5】、クルト人【IFC-9】、
クルト人(遊牧民)【IFF-2】、タジク人【IFC-1】、トルク
メン人【IFF-3】【IFC-6】、ハフチアリ人【IFJ-2】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFF-3】【UFF-4】【UFC-1】
【UFC-3】、ガブフ人【UFF-5】、タジク人【UFC-2】、
トルクメン人【UFF-1】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XFJ-1】【XFJ-2】【XFJ-3】

<機枠の2本の棒を経巻き棒と布巻き棒とした型>

イラン：

パルシア人【IFF-7】【IFF-8】

<機枠の1本の棒と、機枠以外の1本の棒を経糸保
持棒とした型式>

イラン：

パルシア人【IFF-5】、アゼルバイジャン人【IFF-4】、カシュ
カイ人【IFF-1】、クルト人【IFJ-1】、ロル人【IFC-8】

5) 整経方式

枠機の整経方式としては、地機と同様に、平整経
式、輪状整経式、擬似輪状整経式の3方式を確認し
ている。

以下には、これらの整経方式を確認した枠機の国
別の使用民族名とコード番号を記す。

<平整経式>

イラン：

パルシア人【IFF-5】【IFF-6】【IFF-7】【IFF-8】、アゼ
ルバイジャン人【IFF-4】、カシュカイ人【IFF-1】、クルト人
(遊牧民)【IFF-2】、トルクメン人【IFF-3】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFF-3】【UFF-4】、ガブフ人

【UFF-5】、トルクメン人【UFF-1】

<輪状綜絛式>

イラン：

ペルシア人【IFC-3】【IFC-4】【IFC-7】、アゼルバイジャン人【IFC-2】【IFC-5】、クルド人【IFC-9】、タリシュ人【IFC-1】、トルクメン人【IFC-6】、ロム人【IFC-8】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFC-1】【UFC-3】、タジク人【UFC-2】

<擬似輪状綜絛式>

イラン：

クルド人【IFJ-1】、バフアリ人【IFJ-2】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XFJ-1】【XFJ-2】【XFJ-3】

6) 開口具の基本構成型式

開口具には、すでに述べているように地組織を織るための開口具として、輪状綜絛と開口保持棒がある。これらの開口具の基本構成型式としては、輪状綜絛1枚と開口保持棒1本、輪状綜絛2枚、開口保持棒1本のみという3種類が基本的な組み合わせであり、輪状綜絛1枚と開口保持棒1本による構成は、単式輪状綜絛型、輪状綜絛が2枚1組の構成は複合単式輪状綜絛型として位置づけられる。また、後者の開口保持棒のみのケースについては、開口具として綜絛がそなわっていない無綜絛型として位置づけられる。

以下には、これらの基本構成型式に該当する枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<単式輪状綜絛型>

イラン：

ペルシア人【IFF-5】、カシュカイ人【IFF-1】、クルド人【IFJ-1】、クルド人（遊牧民）【IFF-2】、タリシュ人【IFC-1】、トルクメン人【IFF-3】【IFC-6】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFC-3】、ガフ人【UFF-5】

<複合単式輪状綜絛型>

イラン：

ペルシア人【IFF-7】【IFF-8】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XFJ-1】【XFJ-2】【XFJ-3】

<無綜絛型>

イラン：

ペルシア人【IFF-6】【IFC-3】【IFC-4】【IFC-7】、アゼルバイジャン人【IFF-4】【IFC-2】【IFC-5】、クルド人【IFC-9】、バフアリ人【IFJ-2】、ロム人【IFC-8】

ウズベキスタン

ウズベク人【UFF-3】【UFF-4】【UFC-1】、タジク人【UFC-2】、トルクメン人【UFF-1】

7) 紋組織用開口具の構成型式

開口具のうちには、すでに述べているように、紋組織を織るために使用する開口具として、輪状綜絛があり、イランで17枚1組と18枚1組の複合単式輪状綜絛型の構成型式を確認している。

以下には、この構成型式に該当する枠機の使用民族名とコード番号を記す。

<複合単式輪状綜絛型>

イラン：

ペルシア人【IFF-7】【IFF-8】

8) 開口具の設置方式

ここでは、地機のばあいと同様に、さきの開口具の項で述べてきた地組織を織るための開口具や紋組織を織るための開口具によって、経糸の開口と逆開口の操作をおこなうさいの、開口具の設置方式をあきらかにする。

地組織を織るための開口具の基本構成型式には、前述のように単式輪状綜絛型、複合単式輪状綜絛型、無綜絛型の3型式がある。このうち、開口具が輪状綜絛1枚と開口保持棒1本で構成されている単式輪状綜絛型のばあいには、その設置方式は、綜絛固定・開口保持棒可動式である。また、輪状綜絛が2枚1組で構成される複合単式輪状綜絛型のばあいには、その設置方式は、綜絛可動式である。そして、開口保持棒が1本あるだけの無綜絛型のばあいには、その設置方式は、開口保持棒可動式である。紋組織を織るための開口具の基本構成型式は、すでに述べているように、複合単式輪状綜絛型のみであり、このばあいの開口具の設置方式は、綜絛可動式である。

以下には、これらの設置方式に該当する枠機の国別の使用民族名とコード番号を記す。

<地組織を織るための開口具の設置方式>

① 綜統固定・開口保持棒可動式

イラン：

ペルシア人【IFF-5】、カシュカイ人【IFF-1】、クルド人【IFJ-1】、クルド人（遊牧民）【IFF-2】、クリシュ人【IFC-1】、トルクメン人【IFF-3】【IFC-6】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFC-3】、カザフ人【UFF-5】

② 綜統可動式

イラン：

ペルシア人【IFF-7】【IFF-8】

中国・新疆ウイグル自治区：

ウイグル人【XFJ-1】【XFJ-2】【XFJ-3】

③ 開口保持棒可動式

イラン：

ペルシア人【IFF-6】【IFC-3】【IFC-4】【IFC-7】、アゼルバイジャン人【IFF-4】【IFC-2】【IFC-5】、クルド人【IFC-9】、バフチアリ人【IFJ-2】、ルル人【IFC-8】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-3】【UFF-4】【UFC-1】、タジク人【UFC-2】、トルクメン人【UFF-1】

<紋組織を織るための開口具の設置方式（綜統可動式）>

イラン：

ペルシア人【IFF-7】【IFF-8】

9) 開口操作方式

開口具には、すでに述べているように、地組織を織るための開口具と紋組織を織るための開口具がある。ここでは、これらの開口具によって、経糸の開口と逆開口をおこなうための操作方式をあきらかにする。

地組織を織るための開口具の操作は、いずれも手動で、その操作方式は、開口具の設置方式が綜統固定・開口保持棒可動式のばあいには、開口保持棒を動かすことによって、経糸の開口と逆開口をおこなう開口保持棒手動式である。また、綜統可動式のばあいには、2枚1組の輪状綜統を交互に動かすこと

によって、経糸の開口と逆開口をおこなう綜統手動式である。なお、開口具の設置方式のうちには、開口保持棒可動式もあるが、この設置方式の開口保持棒は、後述するように機織りのさいに操作することはない。したがって、地組織を織るための開口具の操作方式としては、開口保持棒手動式と綜統手動式の2種類がある。

一方、紋組織を織るための開口具の設置方式は、綜統可動式であり、その操作方式はいずれのばあいも綜統手動式である。

以上の開口具の操作方式に該当する枠機の使用民族は、さきに提示している開口具の設置方式が綜統固定・開口保持棒可動式のばあいと同様であるが、以下には、これらの操作方式を確認した枠機の国別の使用民族名とコード番号、および、操作方式の概要を記す。

<地組織を織るための開口操作方式>

① 開口保持棒手動式

この操作方式では、水平式枠機のばあい、開口保持棒を手動で手前に引き寄せることによって、経糸の開口をおこない、前方に遠ざけることによって経糸の逆開口をおこなう。また、垂直式枠機と傾斜式枠機のばあい、開口保持棒を手動で下に引きおろすことによって、経糸の開口をおこない、上に押し上げることによって経糸の逆開口をおこなう。ただし、多くのばあい、枠機に張りわたした経糸が太くて毛羽立っていて、経糸同士がからみやすくなっているために、開口と逆開口がスムーズにおこなえない。こうしたことから、一般的には、手のひらで経糸を押して、上糸と下糸を分離させて開口や逆開口をおこなうという補助的な操作が加わる。

イラン：

ペルシア人【IFF-5】、カシュカイ人【IFF-1】、クルド人【IFJ-1】、クルド人（遊牧民）【IFF-2】、クリシュ人【IFC-1】、トルクメン人【IFF-3】【IFC-6】

ウズベキスタン：

ウズベク人【UFF-2】【UFC-3】、カザフ人【UFF-5】

② 綜統手動式

この操作方式では、2枚1組の輪状綜統は天秤仕掛けになっており、天秤保持棒に掛けてある天秤を